

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 89人

② 算数 89人

5 留意事項

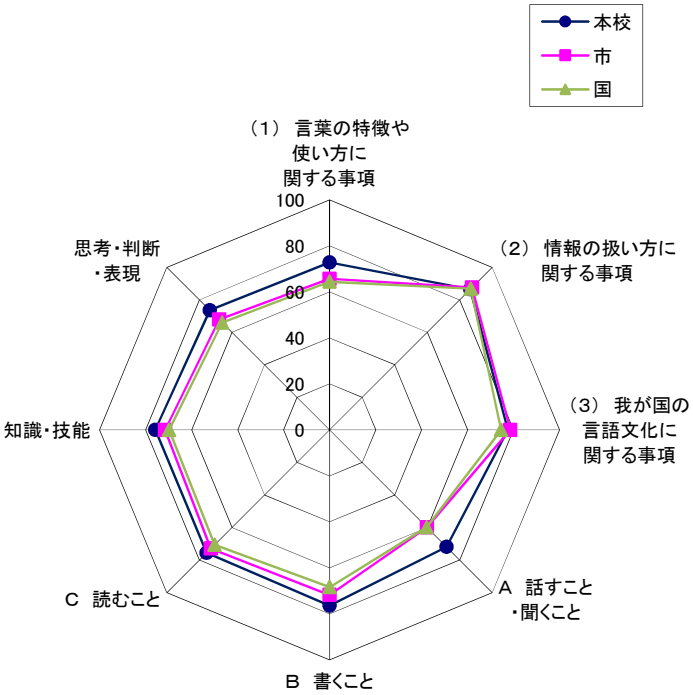
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	72.8	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	86.5	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.5	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	71.9	59.9	59.8
	B 書くこと	76.4	71.8	68.4
	C 読むこと	75.7	72.9	70.7
観点	知識・技能	75.8	71.5	69.8
	思考・判断・表現	73.6	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

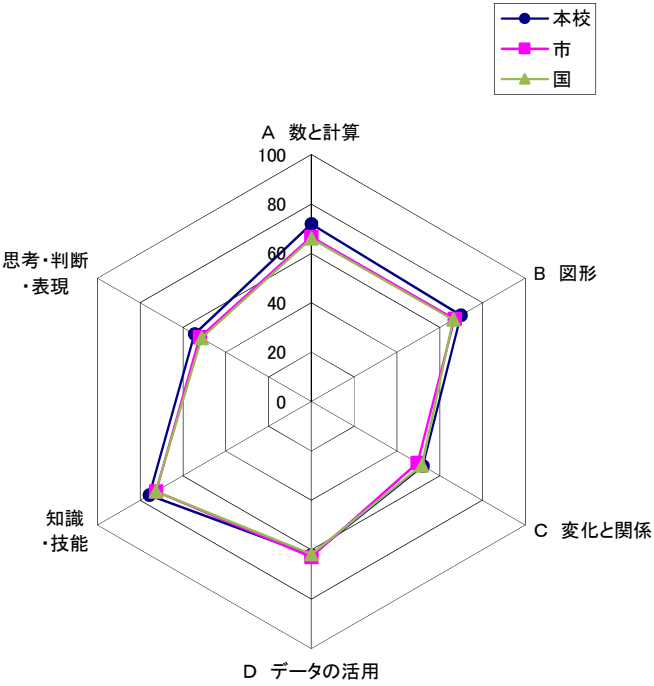
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	・領域の正答率は、72.8%で、県の平均より8.4ポイント高い。 ○漢字を正しく書く問題の正答率は、2問とも県の平均を上回った。 ○話し言葉と書き言葉との違いに気付けるかどうかを問う問題では、県の平均より8.4ポイント上回った。 ○文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかを問う問題では、正答率は県を6.7ポイント上回った。	・漢字について、音読み・訓読みをしっかりと押さえ、漢字の成り立ちを確認したり、書き順を丁寧に指導したりする。また、主語と述語の関係を確認しながら短文作りを行い、正しく使えるようにしていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	・領域の正答率は、86.5%で、県の平均と同程度であった。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を問う問題では、県の平均を0.1ポイント下回った。	・メモの取り方の工夫や考えを図に分かりやすく表すことで、情報のキーワードを見付けたり、整理したりする力をさらに付けさせていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は、77.5%で、県の平均と同程度であった。 ●日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与する問題を問う問題の正答率は、県の平均を0.1ポイント下回った。	・読書の楽しさや有効性を実感しながら、日常生活の中で主体的・継続的に読書を行い、多様な視点から物事を考えることができるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、71.9%で、県の平均より13.3ポイント高い。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように、表現を工夫することができるかを問う問題では、正答率は73.0%と県の平均より21.4ポイント上回った。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかを問う問題では、71.9%と県の平均を10.1ポイント上回った。	・自分の考えをまとめることができるように、国語だけでなく、学習活動のあらゆる場面において、資料を用いて自分の考えを発表する指導を継続していく。
B 書くこと	・領域の正答率は、76.4%で、県の平均より6.1ポイント高い。 ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見等を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う問題では、69.7%と県の平均を10.4ポイント上回った。	・読書の記録の蓄積や行事などの活動の際に、振り返りを書いてきたことが児童の書く力につながっていると考えられる。今後も国語の作文指導以外の場において、文章を書く経験をさせていきたい。
C 読むこと	・領域の正答率は、75.7%で、県の平均より3.5ポイント高い。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかを問う問題では、71.9%と県の平均を5.7ポイント上回った。 ○人物像を具体的に想像することができるかを問う問題では、77.5%と県の平均を4.1ポイント上回った。	・物語の読み取りでは、人物の気持ちを捉えることができるように、叙述を基に登場人物の気持ちを考えるように指導を継続していく。 ・登場人物の心情について、相互の関係に基づいた会話、情景等を通じた表現方法に注意し、想像を豊かにしながら読めるように指導していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.9	66.7	66.0
	B 図形	69.9	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	52.1	49.6	51.7
	D データの活用	62.1	62.9	61.8
観点	知識・技能	75.7	72.6	72.8
	思考・判断・表現	54.6	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	・領域の正答率は71.9%で、県よりも5.2ポイント上回っている。また、すべての問題において、正答率が県を上回っている。 ○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題の正答率は68.5%で、県よりも9.9ポイント高い。 ○除数が小数である場合の除法において、除数が1/10になったときの商の大きさについて正しいものを選ぶ問題の正答率は78.7%で、県よりも11.3ポイント高い。	・練習問題に取り組みさせることにより、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことの習熟を図る。 ・日常の具体的な場面に対応させて、計算に関して成り立つ性質や除数と商の大きさの関係を捉えることができるようにする。 ・記述式の問題に触れる機会を増やし、数の意味と表現、計算に関して成り立つ性質に着目し、多面的に捉え、筋道を立てて説明する力を伸ばしていく。
B 図形	・領域の正答率は69.9%で、県よりも3.6ポイント上回っている。 ○直方体の見取り図について理解し、作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選ぶ問題の正答率は95.5%で、県よりも10.6ポイント高い。 ●球の直径の長さや立方体の一面の長さを捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題の正答率は37.1%で、県と同程度であるが、図形領域の中で最も低い正答率である。無回答率も11.2%と高く、課題があると言える。	・球の構成要素や性質、立方体の体積の求め方を再確認する。また、球や立方体を真上や真横から観察したり平面図形に置き換えて考えたりする活動を通し、球に外接する立方体の一面の長さが球の直径と同じ長さであることを理解させる。 ・様々な図形に関する問題に多く触れるようにし、図形の構成要素や性質を活用して、面積や体積を求められるようにする。
C 変化と関係	・領域の正答率は52.1%で、県よりも3.4ポイント上回っている。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題の正答率は73.0%で、県よりも5.1ポイント高い。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は28.1%で、県と同程度であるが、変化と関係領域の中で最も低い正答率であり、課題があると言える。	・具体的な場面を提示し、速さについて分速や時速で比較するだけでなく、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間で比較することへの理解を深める。 ・記述式の問題に触れる機会を増やし、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりすることに慣れさせる。
D データの活用	・領域の正答率は62.1%で、県とほぼ同程度である。 ○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題の正答率は78.7%で、県と同程度である。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題の正答率は46.1%で、県と同程度であるが、データの活用領域の中で最も低い正答率である。無回答率も9.0%と高く、課題があると言える。	・折れ線グラフを読み取って捉えたことを伝え合う活動を取り入れ、グラフのどの部分やどの数値を基に判断したかを、友達に分かるように伝えられるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、95.5%であり、県の平均割合よりも10.4ポイント高い。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合も97.8%であり、ほとんどの児童が自分のよさや幸せを感じながら生活できていることがうかがえる。今後も児童のよさを伝え、自信をもって生活できるようにさせていきたい。

○「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は84.3%であり、その中でも「とてもそう思う」と回答した児童は59.6%と県の割合よりも14.9ポイント高い。問題文の場面と実生活とを結び付けて考えられる場面を設定するなど今後も指導を工夫していきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問にほぼ毎日とに回答した児童の割合は29.2%、週に3日以上と回答した児童の割合は39.3%であり、県の平均割合よりそれぞれ7.6ポイント、2.9ポイント高くなっている。学校課題として一人一台端末の活用の工夫を掲げ、取り組んできたことが表れている。活用内容についても、「よくしている」の割合が県の平均よりも高くなっている。今後も、各教科の特性に合わせ、一人一台端末を活用した授業の実践を続けていきたい。

●「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は97.7%であったが、「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は52.8%であった。国語の学習がさらに好きになるように、児童の気付きから学習課題をつくり出すなど、児童が興味・関心をもつことのできる指導を行いながら国語の授業の楽しさを伝えていきたい。

●「算数の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は95.5%、「算数の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は95.5%であったが、「算数の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は67.4%であった。算数の学習の必要性や大切さは分かっているが、苦手意識をもっているという児童も少なくない。今後は、「できた」「分かった」の機会を増やししながら、いろいろな見方や考え方に触れ、考える楽しさを進んでいきたい。

●「朝食を毎日食べていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、86.5%であり、県の平均割合より7.8ポイント低くなっている。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、85.4%であり、県の平均割合よりも7.5ポイント低くなっている。学級活動や家庭科の授業を通して、食事の大切さを指導するだけでなく、学校からの便りなどで家庭への啓発・協力をお願いし、児童の生活を向上させるようにしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は全国よりも高い。表現力向上に向けた一人一台端末の活用が必要だと言える。	調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用	「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は97.7%であったが、「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は52.8%であった。興味をもって学習して国語の勉強が好きになれるように日々の授業を工夫していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の調査結果から、必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題の正答率は県と同程度であるが、無回答率も9.0%と高く、課題があると言える。	児童の思考を可視化し、論理的思考力や表現力を育むための一人一台端末の活用	授業で、自分の考えをまとめる時間を確保し、協働学習ソフトや共有機能を活用した学び合いができるようにする。また、自分の考えや調べたことを要点を押さえながら必要な数値や条件を具体的に話し合う活動を意図的に位置付ける。